

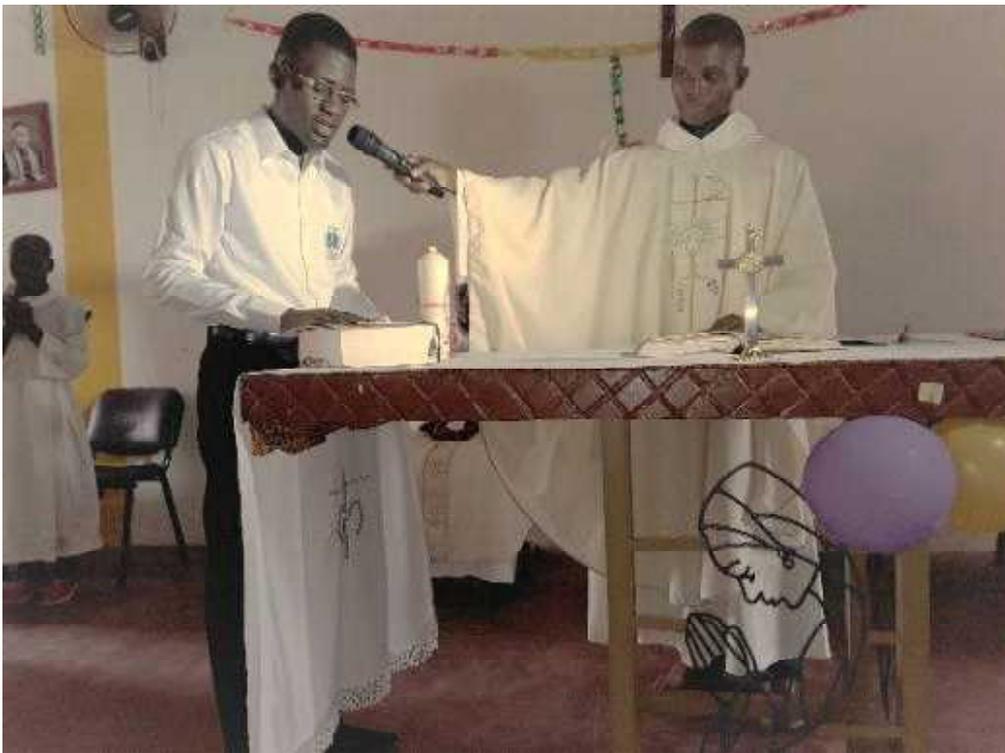


# Via Latina 22

2019年7月 282号

## 総本部よりのお知らせ－マリア会

### トーゴ地区での初誓願式



左より：マリア会の Wilson-Bahun 士とトーゴ地区の地区長 Ignace Pagnan 師

6月23日、日曜日、トーゴ地区のAlban Séwa Harris Wilson-Bahun士がマリア会の初誓願を宣立しました。ミサ聖祭と誓願式はトーゴの北部にある町、ソトゥブアにて行われました。

Albanは1993年6月22日、トーゴのロメで生まれ、高校卒業後、専門家としての養成プログラムの道に入る選択をしました。Albanはロメの経済商業専門学校で商業実践の資格を取るため大学に行きました。Albanは2016年10月、トーゴ・カラの“フィアットの聖母”で前修練期を開始しました。翌年9月に彼はコートジボワールのアビジャンにある柱の聖母修練院に入りました。

トーゴ地区長、Ignace Pagnan 師がミサを司式しました。誓願式は9時半にソトゥブアの Robert Mattléの理系高校の講堂で始まりました。その地域の名高い音楽家であるマリアニストLucien Gnankou士の指揮する若いマリアニストの聖歌隊が聖歌を担当しました。この誓願式ミサの聖書テキストは当日のイエズスのご聖体の祭日のものでした。

この素晴らしい誓願式ミサが終わってから、この誓願式に近隣から、また遠方から出席した人々は素晴らしい食事を共にしました。彼らは心身共に満たされ、元気に帰路につきました。この一日は本当に大きな喜びの日でした。

---

## アルゼンチン地区長としての二期目の任命



2019年6月19日に開かれた会議で、総長評議員会は全員一致で Javier de Aguirre 師をアルゼンチン地区長として再任しました。これは2019年11月1日に始まる3年間の第2期目の任期となります。

地区内の意見聴取で、地区長としての彼への支持は明らかでした。地区のメンバーは彼が第一期中に果たした任務を大変評価していました。更に、この期間に彼はその活動を通して地区の現状と喫緊の必要が何かを良く認識することが出来ました。

信仰の精神とマリア会への奉仕の精神で、Javier 師は地区を導くために必要な任務を果たすべく、この任命を快諾しました。総長評議員会は彼の喜んで引き受ける前向きな姿勢に感謝し、さらに、地区を活性化し指導するかれの能力に信頼を表明します。

---

## コロンビア・エクアドル地区の新しい地区本部

他に居住場所を見つけなければならぬために不便を余儀なくされ、長期間待たされましたが、コロンビア・エクアドル地区本部共同体は2019年6月16日、新たに建てられた本部に大喜びで引っ越しを行いました。旧地区本部はその設備と状態の両面で最早必要に応えられる状況ではありませんでした。兄弟たちは、しばらくの間、購入しようとして他の場所を探してきました。しかし結果的に、現本部の場所に新たに本部を建てるのがより現実的でコストも低いとの結論に至りました。従って、共同体は一時的に本部と事務所を明け渡し、その場所に新たに本部を建築することにしました。



この新しい建物は簡素ですが、巧く建てられていて、地区事務所として地区機能をスムーズに果たすのに必要な特徴を備えており、また同時に、高齢の修道者、或いは病気の修道者などが適切に住める部屋もあります。まだなすべき仕事が残っており、また、もちろん共同体はその新居に順応し適応していかなければなりません、この新本部に戻りここで生活を始めるのを大変喜んでます。

この地区のために、私たちはこの移転がうまくいくように祈りを捧げます。

**皆様への情報としてコンタクト先を下記連絡します：**

Casa Regional de Los Marianistas  
Carrera 11B #19-29 Sur.  
Barrio Ciudad Jardín SUR. Bogotá D.C.  
Colombia  
Tel: [+57\(1\) 802 97 74](tel:+5718029774)



## OIEC主催のカトリック教育に関する世界会議： 2019年6月、ニューヨークで開催



聖パトリック大聖堂での開会ミサ

OIEC(カトリック教育国際機構)はカトリック教会のNGOです。このOIECには種々の面がありますが、その使命は、カトリック的インスピレーションを伴う教育計画を世界に広めることです。さらに、第二の使命は、教育の分野でカトリック学校の有する独特の貢献についての調査、研究を促進することです。この機構は二つのタイプのメンバーで構成されています。すなわち、一つはOIECのメンバー国のカトリック教育の責任者であった人々で、もう一つは特に修道会に代表される準会員メンバーであった人々です。このOIECは4年毎にそのメンバーのための総会を開催します。また、全ての人に開かれた国際会議を支援しますが、この国際会議は教育に関する重要な今日的テーマを取り扱います。



ヨーロッパ、ラテンアメリカ、米国からのマリアニスト  
参加者の一部 会議開催のフォードハム大学にて

この4年毎のOIEC会議は、今年、2019年6月3日～8日、ニューヨークで、フォードハム大学と関連のある幾つかの施設で開催されました。会議の第一の考察は「ラウダード・シ」(教皇フランシスの二番目の回勅)について、第2の考察分野は、連帯、ヒューマニズム、そして私たちの“共通の家”(「ラウダト・シ」参照)の保存について生徒たちを教育するうえでの世界のカトリック学校の貢献にすることが中心でした。OIECにとって、それは世界のカトリック学校が守らねばならない2つのガイドラインの間に存在する繋がりを象徴的に示すという課題です。最初のガイドラインは国連とユネスコによって“2030年教育計画”と題された計画に決められたガイドラインと関係しています。他方、カトリック学校は教皇回勅「ラウダード・シ」の中で教会によって提起されたガイドラインを考慮に入れなければなりません。これは、教会の教えと関連している全人類のための教育原理を実践しようとするOIECの強い覚悟のしるしでした。



Kellenberg 高校のマリア会共同体 (メリバ管区) で  
宿泊したグループ

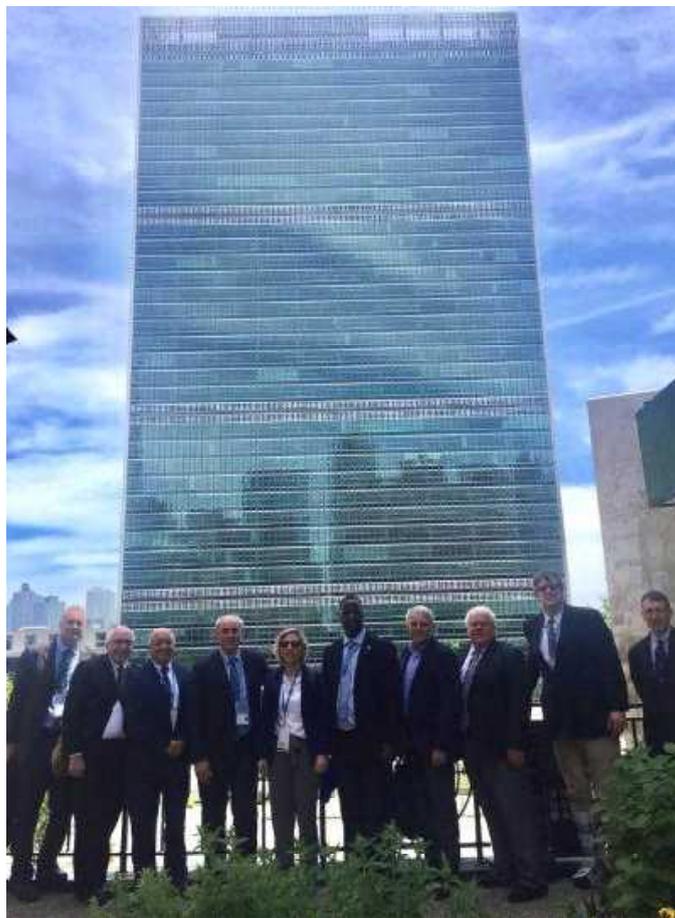
ニューヨークのこの会議には80ヶ国から約500名の参加者が集いました。彼らはカトリック教育施設の生徒である6,200万人もの若者を代表するためにニューヨークにやって来ました。参加者の中には約50名のマリアニスト修道者と信徒の協力者がいました。彼らは世界の各地を代表してこの会議に来ていました。総本部教育局長に引率された11名の代表団は Kellenberg Memorial 高等学校のマリアニスト共同体に滞在し、そこから毎日フォードハム大学に行き来しました。このために、彼らはこの会議の議題ではないことも出来ました。彼らはメリバ管区の三つの学校を訪問することができ、この共同体の修道者と祈りと生活を分かち合い、そして幾人かの生徒とその家族に会えました。

次の4年間のOIECリーダー改選の時が来たとき、2名のマリア会修道士、José María Alvira士(スペイン)とMaximin Magnan士 (マリア会総本部)がOIECの執行評議員のメンバーに選出されました。

この会議で現れてきた最も重要な考えの中で、私たちは次の事実を取り上げることができます。

\* 全世界で20万以上あるカトリック教育機関に6,250万の子供と若者が入学している。

- \* カトリック学校の現状は30年前の状況と非常に異なっている。今日、発展途上国のカトリック学校はその生徒数において著しい増加となっている。生徒数ではインドが一番で、その次はアフリカの4か国、そしてフランスとアメリカが続く。それからラテンアメリカを含む他の国々が入り混じっています。
- \* カトリック学校の実情はこれらそれぞれの国によって完全に異なる。従って、教育へのアクセスと教育の質を改善する手段や方法は同様に完全に異なる。ある国々では、国家が学校に関わるすべての面で資金を提供している。他の国々ではそのような事はなく、国家はカトリック学校には資金を提供しない。この事はこれらの学校が直面せねばならない課題に影響を及ぼすことになる。
- \* 全体で見ると、カトリック学校はその使命をよく果たし続けている。カトリック学校は教会と生徒たちに対して価値ある貢献を成し続けている。国家からの支援がないためカトリック教育のコストが高騰しているという事実にもかかわらず、これは真実である。



国連本部の前のグループ写真

会議はニューヨークの聖パトリック大聖堂で100名程の司祭と司教の共同司式による荘厳ミサで始まりました。会議の閉会式は国連の本部にて行われました。閉会式に出席した人々の中には国連の教皇庁常任オブザーバー、Bernardito Auza大司教、および教皇庁カトリック教育長官、Angelo Vincenzo Zani 大司教がいました。

## José María Arnaiz師 チリの教皇庁視察官に任命される

私たちは私たちの兄弟、José María Arnaiz師がチリに現存する奉獻生活者の全ての養成施設と全ての修道会への教皇庁視察官として任命されたとのニュースを受け取りました。教皇庁の奉獻・使徒的生活会省がこの任命を行いました。

José María師は他の2名の視察官と共に任務を果たします。これら二人の視察官はチリの修道会の管区長たちです。彼らは一緒になって計画を作成し、これらの共同体の生活を評価するのに使用する基準を定めます。

これに加えて、これら同じ基準を用いてこれらの共同体に助言を行います。こうして彼らは、ローマの修道会省をこれらの共同体をサポートするというその任務において手助けできるのです。

私たちはJosé María師がこの新たな責任のために必要な勇気と創造性を持てるよう祈ります。私たちはこの任命を彼への信頼のしるし、およびマリア会への信頼のしるしとして受け取ります。



VIA LATINA 22 は次の 10 月号までお休みです！  
それまでご機嫌よう！

### 最近の総本部通信

- 訃報：18号～20号

### 総本部日程

- 7月4日～14日：総長評議員会、全員ペルー、リマのCLAMAR（マリアニストラテンアメリカゾーン）会議に出席
- 9月22日～10月19日：総長評議員会、全員インド従属地区（アメリカ管区）訪問